**第4学年1組 国語科学習指導案**

**１　単元名・教材名**　熟語の意味

**２　本時の学習指導**（1/1）

（１）目標

〇漢字の訓や組み合わせを手がかりに、熟語の意味を考えることができる。

（２）評価規準（1時間の授業に即した具体的なもの）

|  |
| --- |
| ア　国語への関心・意欲・態度 |
| ・漢字の訓や組み合わせを手がかりに、熟語の意味を考えようとしている。 |

（３）展開(〇は指導上の留意点　　　　内は評価を表す)

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 学習活動 | 学習内容 | 指導と評価の創意工夫 | 時間 |
| １　本時の学習のめあてを知る【全体】漢字を手がかりに、熟語の意味を考えよう２　漢字の訓や意味を手がかりに熟語の意味を考える【全体】３　意味を考えた熟語を４つのグループに分け、各グループの共通点を見つける【全体】４　練習問題に取り組む【個人】５　熟語クイズを作る【個人】６　作ったクイズを伝え合う。【ペア】　７　ペアのクイズを発表する【全体】８　本時のまとめ、振り返りを行う。 | ・漢字の訓や意味を手がかりとした熟語の意味の考え方・二字熟語における漢字の組み合わせの種類＜漢字の組み合わせの種類＞①似た意味を持つ漢字の組み合わせ②反対の意味を持つ漢字の組み合わせ③上の漢字が下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ④「－を」「－に」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ・・熟語の意味・熟語の分類の仕方（四つ）＜評価規準＞ア　国語への関心・意欲・態度 ・漢字の訓や組み合わせから、熟語の意味を考えようとしている。＜手立て＞・漢字の組み合わせの種類に応じて四つ以上クイズを作成した児童には、クイズを作って気が付いたことをノートに書かせる。（何番に分類される漢字が多かった、何番に分類される漢字は少なかった、何番と何番の区別が難しかった、等）・クイズが作成できない児童には、熟語を一つ選ばせ、漢字の訓と組み合わせの種類を机間指導で確認する。・自分と違う意見を聞くことによる、自分のクイズや答えの見直し・漢字の訓や組み合わせによる熟語の分類と意味の類推の仕方〇良いクイズの作り方・本時のまとめ、自己評　価 | 〇「等分」を例に、熟語の意味を考える。〇熟語の定義を確認する。〇漢字の訓から熟語の意味が考えられることを伝える。〇漢字ドリルを参考に熟語を探すようにする。＜評価方法＞・机間指導による観察・ノートの観察〇友達のクイズに修正すべき点があった場合には、本時で押さえた熟語の意味の類推の仕方に沿ってアドバイスするよう助言する。〇友達と答えが食い違った場合には、自分の熟語の意味の類推の仕方も再度確認するように助言する。〇何故そのクイズがよく出来ていると思ったのか、理由を答えるよう伝える。 | 5’12’5’5’10’3’2’3’ |

**３　備考**　在籍児童数　35名

**４　板書計画**

まとめ

漢字の訓や、組み合わせを手がかりにすると、

熟語の意味を考えることができる。

一月二十二日

等分　等しく分ける

・熟語…二字以上の漢字の組み合わせでできた言葉

・訓から意味を考えられる

流星　流れる星

加入　加わる・入る

高低　高い・低い

消毒　毒を消す

①願望　　　　　②勝敗

選挙　　　　　　売買

救助　　　　　　強弱

③清流　　　　　④読書

前進　　　　　　帰国

花束　　　　　　登山

　①にた意味を持つ漢字の組み合わせ

　②反対の意味を持つ漢字の組み合わせ

　③上の漢字が、下の漢字を修飾する関係にある組み合わせ

　④「―を」「―に」に当たる意味の漢字が下に来る組み合わせ

漢字を手がかりに、熟語の意味を考えよう